

# 35 当院透析室における足病変診断（フットチェック）の取り組み

健和会病院 血液透析センター

○市瀬彰子 原田美保子 井原智恵子 久保田由子 龍口孝子 南島和子 清水幸子  
前島 学 久保田利恵 木村由香里 筒井久美子 熊谷悦子

## はじめに

近年、糖尿病患者のフットケアの必要性を認識し積極的にフットケアを取り入れるようになってきた。しかし、糖尿病性腎症、腎硬化症に代表される動脈硬化病変を伴う透析患者の増加とともに、非糖尿病患者においても足病変の予防・早期発見は重要だと考えた。そこで当院では、全透析患者を対象に足病変の観察、評価(以下フットチェック)を行い、病変のある患者に対して治療を開始したので報告する。

## 1. 対象

対象は、当院慢性透析患者97名(男性62名、女性35名)平均年齢は66.5歳、平均透析歴は5.7±8.2年、基礎疾患は慢性糸球体腎炎53名、糖尿病性腎症33名、嚢胞腎11名。既存の足病変は大切断後3名、多発小切断後1名、単指切断後1名、FontaineⅡ°のASOは1名、FontaineⅢ°のASOが1名であった。統計処理は、 $\chi^2$ 乗検定を用いた。

## 2. フットチェック及び介入の方法

透析中の患者に対し、看護師が足の観察、評価を行った。フットチェック専用用紙を作成し、皮膚・爪・足の形・傷の有無の観察、動脈拍動の触知、表在知覚・深部知覚の検査を行い、異常はデジタルカメラによって記録を残した。病変のある患者に対しては医師に報告し精査・治療につなげ、看護師による個別指導にて足の観察、手入れ方法の指導を行った。

当院のフットチェック用紙では、観察者による評価の差を防ぐために、項目ごとに分けチェックするようになっており、医師に報告が必要か記入するようになっている。また、継続して観察していけるよう

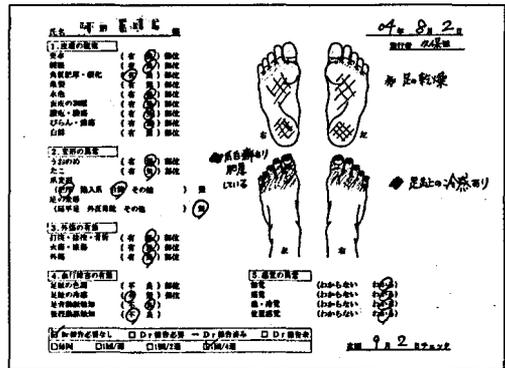


図1 フットチェック用紙

に次回のチェック日を書き込み、足の状態の図を記入する。(図1)

## 3. フットチェックにより得られた足病変の頻度

最も多かったのは爪肥厚であり患者の59.7%にのぼった。次に角質肥厚が52.3%、冷感41.4%、後脛骨動脈触知不良33.8%白癬症30.3%であった。トラブルの全くなかった人は全体の7%で、93%に何らかの足病変を認めた。(図2)

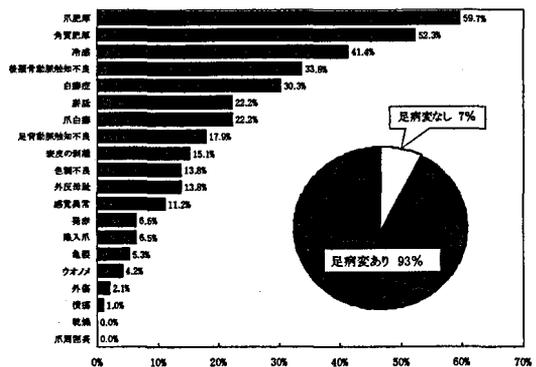


図2 フットチェックにより得られた足病変の頻度

#### 4. フットチェックを契機として新たに治療が始まった症例の内訳

白癬症の患者は新たに6名の患者に薬物治療が開始された。色調不良、冷感の患者の6名にプロスタグランジン注射や炭酸浴を、亀裂、低温熱傷の各1名に創傷治療が開始された。陥入爪の患者2名が形成外科を受診し、爪切りを行った。(図3)

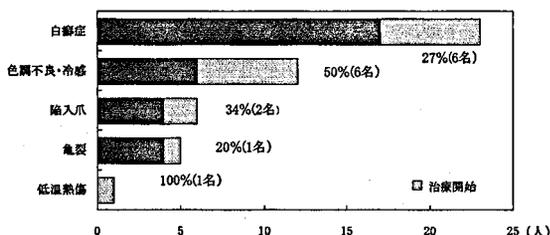


図3 フットチェックを契機として新たに治療が始まった症例の内訳

#### 5. 糖尿病の有無による下肢血流障害の頻度

冷感、足背動脈触知不良、足趾色調不良、感覚異常のいずれもDM群が非DM群に比べ多くみられたが、有意な差はなかった。(図4)

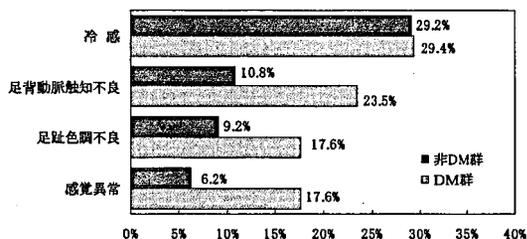


図4 糖尿病の有無による下肢血流障害の頻度

#### 6. 糖尿病の有無、性別による白癬菌陽性率の比較

DM男性に白癬菌陽性者が多かったが有意な差はなかった。(図5)

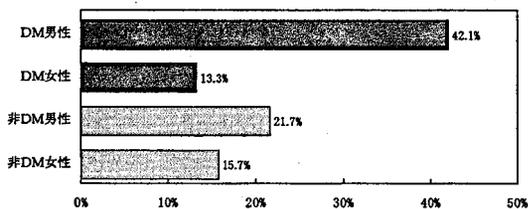


図5 糖尿病の有無、性別による白癬菌陽性率の比較

#### 7. 考察

足の観察をした患者97名中90名(93%)という高い確率で何らかの足病変を認め16名の患者に新たに治療が始まった。透析患者の高齢化が進み、それに伴う視力障害も生じており、今後セルフケアが困難な患者が増えることが考えられる。また、下肢の感覚障害により自覚症状が乏しい患者もいたことも考慮すると、症状の有無にかかわらず全例にフットチェックを行う必要があることがわかった。一般には、DM患者に足病変を生じやすいと言われているが、今回のわれわれの検討では血流障害と白癬菌の有無について、非DM患者とDM患者には有意な差はなかった。以上から足のチェックは全透析患者に必要であると考えられる。

#### 8. まとめ

全透析患者にフットチェックをおこなった結果93%という高い確率で足病変を生じており、そのうち16名が新たに治療を開始された。血流障害と白癬菌の有無について非DM患者とDM患者には有意な差はなかった。足のチェックは全透析患者に必要であると考えられる。

#### おわりに

フットチェックを行い、看護師は全患者に対するフットチェックの有効性を実感し、足に対する意識が高まった。今後は、看護師によるフットケア技術の向上を目指しフットケア実現へ結び付けていきたいと思う。

今後の私達の課題には患者自身の足のセルフケア自立へ向けた関わりが必要になってくる。足への関心を高めフットケアを行っていただけるように患者・家族への学習会の実施や患者が利用している介護サービスへの協力要請など周囲の協力も得て実施していく必要があると考える。

#### 【参考文献】

- ・看護技術「焦点 徹底的にフットケア!」:メヂカルフレンド社:2001VOL.47NO.6通巻694号
- ・看護技術「焦点 糖尿病患者の透析導入と看護」~糖尿病患者のフットケア~:メヂカルフレンド社:2003VOL.49NO.13/P43~47
- ・透析ケア「特集足病変を予防する!透析室のフットケア」MCメディカ出版 P12~P34